

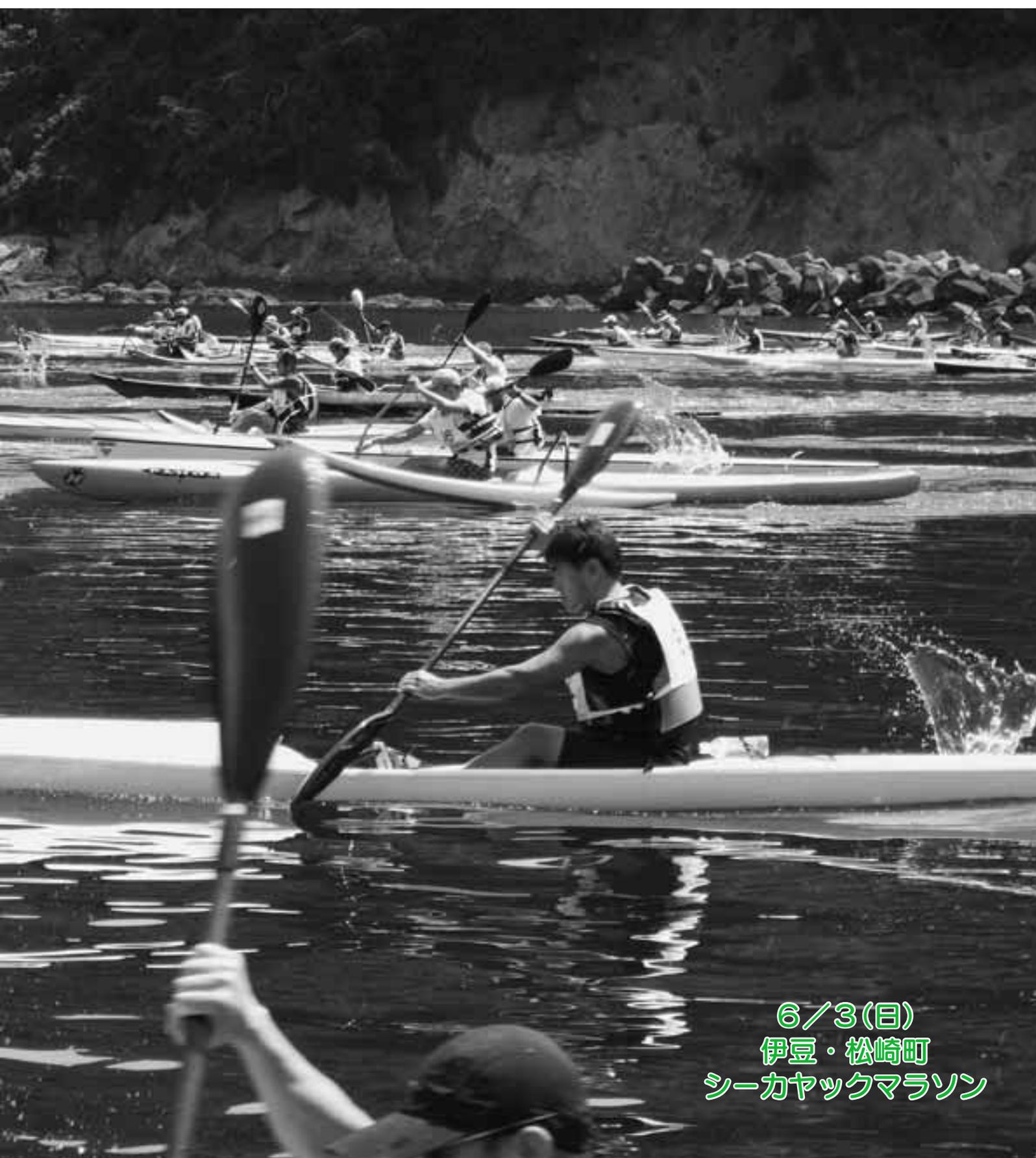
広報
の

まつざき

2007
(平成19年)

7

No.518



6/3(日)
伊豆・松崎町
シーカヤックマラソン

安全で快適な夏に向けて

夏期対策の概要をお知らせします



六月三日、県内海水浴場のトップを切つて岩地海水浴場で海開きが行われました。これに続き、二十五日には石部海水浴場、七月一日に雲見海水浴場、七月七日には松崎海水浴場の海開きが予定されており、本格的な海水浴シーズンを迎えます。

各海水浴場とも七月十四日から監視業務を始め、安全確保に努めます。

賀茂健康福祉センターによる海水浴場の水質検査の結果は、岩地・石部・雲見がA、松崎がAと判定され、安心して海水浴が楽しめます。

また、近年愛好者の増えている水上オートバイ対策として、松崎海岸ではブイを設置して遊泳区域と運行区域を明確にするほか、監視員による放送、チラシ配布を実施し、海水浴客やシーカヤックとのトラブル・事故防止に努めます。

宿泊施設や飲食店では、衛生管理に留意し、食中毒の防止に努めましょう。

本格的な夏のシーズンを控え、地域・住民・関係機関が連携し、安全で快適な環境づくりにご協力をお願いいたします。

<参考> 海水浴場の水質の判定基準

区分	ふん便性 大腸菌群数	油膜の有無	COD	透明度	
適	水質A A	不検出 (検出限界2個/100ml)	油膜が認められない	2mg/l以下	全透 (水深1m以上)
	水質A	100個/100ml以下	油膜が認められない	2mg/l以下	全透 (水深1m以上)
可	水質B	400個/100ml以下	常時は油膜が認められない	5mg/l以下	水深1m未満 ~50cm以上
	水質C	1,000個/100ml以下	常時は油膜が認められない	8mg/l以下	水深1m未満 ~50cm以上
不適	1,000個/100mlを超えるもの	常時油膜が認められる	8mg/l超	50cm未満	

ゴミ対策

ゴミの量が増大する夏期の処理対策として、七月二十三日から八月十九日まで特別収集を行います。日程等は広報お知らせ版をご覧ください。

皆様のご協力をお願いします。

可燃ゴミは指定ゴミ袋で出すしてください。

可燃ゴミと分別ゴミはしっかりと分けて、分別収集にご協力ください。

水分を充分切ってから出してください。

可燃ゴミは八時十五分までに出してください。

不法投棄防止対策

夏期シーズンは廃棄物不法投棄が多発します。その対策として、例年不法投棄取締りパトロールを実施しています。期間は七月、八月の二カ月間で、不法投棄多発箇所を中心に毎週実施します。

不法投棄を発見した場合は廃棄場所、廃棄物の種類によって土地所有者、関係機関への連絡を行います。また、悪質なものについては警察に通報するなどの措置を講じます。

交通安全県民運動

①安全は 自ら
うちから 地域から
①子どもと高齢者の歩行中の

交通事故防止 ②自転車の安全利用の推進 ③シートベルト・チャイルドシート着用の推進を重点目標に「夏の交通安全県民運動」が七月十一日から二十日まで展開されます。

観光客、帰省客の増加に伴い交通事故も増加する傾向にあります。交通ルールとマナーを守り、交通安全に心掛けましょう。

なお、八月十六日は夏まつり開催により、松崎地区で交通規制が行われますので、皆様のご協力をお願いします。

青少年の健全育成

七月は、青少年非行防止強調月間です。家庭・学校・地域社会が連携し、青少年の健全育成および非行防止に努めましょう。

期間中、健全育成の啓発チラシの配布や非行防止の街頭キャンペーン、下校時の街頭指導等さまざまな取り組みが予定されています。

「うちの子・町の子・みんなの子」を合言葉に地域一丸となつて子供たちを育てましょう。

生徒の安全を第一に

松崎中学校の 耐震補強改修工事が 始まります。

松崎中学校校舎は、昭和四十五年

に竣工し、はや三十六年を経過しました。この間に、昭和四十九年の伊豆半島沖地震や、昭和五十三年の大島近海地震などの大きな自然災害を乗り越えてきましたが、経年による劣化、更に昭和五十六年の建築基準法改正による、新耐震基準を満たすために今年度、耐震化を実施することになりました。

当初は改築の方向で計画していましたが、今後、校舎以外の屋内体育館、技術科棟の耐震化も予定されるなど、財政負担が大きくなることから、現校舎の耐震補強工事と老朽化部分の改修工事を行うこととなりました。

去る五月二十八日に入札を実施し、西松建設株式会社

が落札、六月十四日の議会議決を得て、三億二千五百五十万円で正式契約の締結となりました。

工事の主な内容は、耐力壁を十九カ所増設し、建物の揺れを防ぐブレースを十八カ所に設置するなどして耐震力を高めます。また、屋上の既設防水層を撤去し、FRP断熱防水とするなど老朽化部分の改修も併せて実施するものです。工期は、平成二十年三月二十五日迄で、工事中の騒音、生徒への安全対策に配慮して、工事を夏期休業中や土日に集中させるなどして対処する予定です。

工事期間中は、近隣の皆様には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。



南側立面図



北側立面図

平成18年度

事業会計決算の概要

長引く観光産業の低迷により、事業会計も厳しい決算内容となりましたが、経費節減や利用促進を図り、健全経営に努めてまいります。

水道事業会計

昨年度の有収水量は百九万六千立方メートルで、一般、営業、官公署のほとんどの分野で使用水量が減少し、前年と比べ二万七千立方メートルの減となりました。

使用水量の減少により収益は減少しましたが、人件費の見直しを行うなど経常経費も減少しました。しかし過年度の本管布設替工事に伴う固定資産の除却がされていなかったため、特別損失（一）で一億一千二百六十四万円を計上しました。このため総費用は二億四千六百八十二万円となり、差引純損失は一億九百五十万円となりました。

なお、管路の耐震化を目的

温泉事業会計

現在の契約給湯戸数は、自家用三百十六戸、営業用三十九戸、毎分二千二百二十二リットルを給湯しています。

町営サンセットヒル松崎の廃業や、営業用から自家用への種別変更などにより供給収益は減少しましたが、人事異動により職員給与費が減少したことや、企業債の償還が終了したため支払利息が減少するなど費用も減少しました。この結果一千百七十八万円の純利益を計上しました。施設は順調に稼働してまいります。

(※) 水道事業会計特別損失に関する説明

今回の特別損失は、平成4年度から行った本管布設替工事で廃棄した古い管などの固定資産を台帳からなくするための会計処理です。公営企業会計では、工事などで支払った金額（固定資産）を毎年「減価償却」し、固定資産を廃棄した時に残りの金額について「固定資産の除却」を行います。この「固定資産の除却」がされていませんでしたので、固定資産の保有状況を直すため、特別損失の会計処理を行いました。

今後は適正な会計処理に努めてまいります。

ですが、収益が減少傾向にあることから、新規加入や利用促進に努めてまいります。

町営宿泊施設 伊豆まつぞぎ荘 事業会計

昨年三月九日にオープンいたしました。前半はオープン効果もあり好調な滑り出しとなりましたが、秋以降伸び悩み、結果として宿泊者数は二万八千七百八十八人、宿泊利用率57.6%と、当初の目標（60%）を下回り、また事業収支も、事業収益三億五千四十七万八千円に対し事業費用三億五千八百六十一万八千円と、八百十四万円の損失を計上する結果となりました。

原因として、減価償却費が多いなどの理由もありますが、集客対策の充実と経費の節減により収支の回復を図り、観光の牽引役としての使命を果たしていきたいと思っております。

会計別決算状況

単位：千円（税抜）

項目	決算額		差引 (純損益)	前年対比	
	収入	支出		収入	支出
水道事業会計	137,322	246,825	△109,503	98.0	188.2
温泉事業会計	66,047	54,258	11,789	95.5	94.6
町営宿泊施設事業会計	350,478	358,618	△8,140	-	-

静岡県消防協会 賀茂支部査閲大会

一カ月間の訓練成果を披露

静岡県消防協会賀茂支部査閲大会が六月十日（日）、河津町の笹原桜まつり駐車場で行われました。

大会には、賀茂地区一市五町の消防団から出場十二チームの選手を含む団員五百七十六人が参加しました。

この大会は、団員の技術向上と消防意識の高揚を目的に隔年で開催されています。

競技は、ポンプ車操作法、小型ポンプ操作法の二部門で行われ、ポンプ車が六人、小型が五人でチームを編成し、動作の正確さやタイムなどを競い合いました。

松崎町消防団からはポンプ車操作法に第二分団第一小隊（江奈）、小型ポンプ操作法に第二分団第二小隊（桜田）が出場しました。開会式では選手を代表し、ポンプ車操作指

揮者の土田克之さんが力強く宣誓を行いました。

当日は、あいにくの雨となり開会が約二時間遅れ、会場も急きよ河津中学校から隣接の桜まつり駐車場に変更になりました。

選手は、慣れないアスファルトでの競技となりましたが、大会に向け約一カ月間続けてきた訓練の成果を大勢の関係者が見守る中、堂々と披露しました。

大会結果

ポンプ車操作法の部

- ①東伊豆町
- ②河津町
- ③西伊豆町

小型ポンプ操作法の部

- ①南伊豆町
- ②東伊豆町
- ③河津町



ポンプ車操作法の部

第2分団第1小隊（江奈）

指揮者	土田克之班長	3番員	長島秀和団員
1番員	吉長知也班長	4番員	小林恵輔団員
2番員	小鹿友希団員	補助員	真野雅彰班長



小型ポンプ操作法の部

第2分団第2小隊（桜田）

指揮者	齋藤孝規班長	3番員	山田信介団員
1番員	平野貴士団員	補助員	山田雄介班長
2番員	山田太一団員		



宣誓する土田克之班長



ポンプ車操作法



小型ポンプ操作法

栄えある叙勲

旭日單光章（高齢者叙勲）

山本義文さん（池代）

元町議会議員の山本義文さん（88）が、旭日單光章（高齢者叙勲）を受章し、五月二十九日、県庁において石川知事から伝達を受けました。

山本さんは、昭和五十年四月から三期十二年にわたって町議会議員として活躍されたほか、昭和六十二年から約二年間、町助役も務められ、地方自治の発展に貢献されました。



百歳のお祝い

大乗富美枝さん（江奈三）

明治40年6月4日生

六月四日、深澤町長が大乗さん宅を訪問し、記念品を贈呈しました。



子ども会球技大会

六月十日に行われた球技大会の結果をお知らせします。

優勝 岩科ファイヤーイグルス
準優勝 中川YAMABIKO
3位 サウスロードレッド

ジャスパーズ（道部・南区）



松崎文芸

俳句

雲入れて零るるばかり植田水

細矢金治

夏めくや通る人また颯爽と

山本武男

竹落葉宙に舞ふ見る一日旅

鈴木すみ江

初島や卵浪の向ふの白き壁

佐藤 享

段々の多き湯の街白日傘

斎藤みつ子

大正のロマンの名残り夏館

依田ふじ枝

夏帽子脱いで回れり起雲閣

清水高子

風薫る文人偲ぶ起雲閣

石田 宏

緑蔭に入りて憩の昼餉かな

吉岡うた子

食事とる卯月ぐもりの姫の沢

小林一男

雷に追はれあたふた姫の沢

松田美智子

ユトリ口の描く春愁人不在

山本一詞

古美術に懐古しきりや山若葉

小林忠男

花水木観音像の丸き眉

稲葉菊恵

仏像の慈眼に魅せらる夏木立

土屋規矩子

何となく生きて今日あり雨蛙

稲葉文字

まちのびきぼう

シーカヤック マラソン

六月三日(日)、県内のトップを切って岩地海水浴場で海開きが行われました。

この海開きに併せ、岩地海岸をスタート・ゴールに波勝崎を往復する「第九回伊豆・松崎町シーカヤックマラソン」が行われました。

全国から百六十七艇二百三十二人が出場し、シングル、タンDEMなど4部門で優勝が争われました。



帯広市からの初夏の定期便「スズラン」届く

六月八日(金)、帯広市から初夏の花「スズラン」五千本が届きました。

このスズランは、市親善交流課の皆さんが摘み取り航空便で発送したもので、早速仕分けられると町内の学校などに配布されました。

この定期便は、昭和五十三年の姉妹都市締結時から続けられており、今年で三十回目となります。



みんなの花壇づくり

六月十六日(土)、「松崎十字の園」で、三聖塾、みどりの少年団、海洋クラブ合同の花壇作りが行われました。

この活動は、入所しているみなさんにきれいな花を見てもらおうと取り組んだもので、花の苗は松崎高校の生徒が種から育ててくれました。

サルビアやマリーゴールドが植えられ、二時間程できれいな夏花壇が完成しました。



シーカヤックのイベント

シーカヤックマラソンのスタートの様子が本号の表紙を飾っている。

岩地海水浴場の波打ち際をスタートラインとし、号砲一発で百六十艇余りが一斉に漕ぎ出す様子は壮観であった。

選手の年齢層は広いようにうかがえたが、岩地から千貫門を経て波勝崎まで往復約十六^{キロ}のコースにも走ることができるようである。

シーカヤックといえはアドベンチャーレースが思い浮かぶが、厳しいコースを夜を徹して突き進む過酷なレースであり、その上レースをサポートする人達の確保が大変であり持続できなくなっている。

いつそのことレースを簡略化して中高生も参加できるようなものに変え、

大勢が応援できる「ソフトアドベンチャーレース」として残すなど、アドベンチャーレースをこのまま終わらせないでほしいと思っただ次第です。

松崎町長
深澤 進

町長室からこんにちは ⑥7



21世紀 松崎町三つの実践運動「あいさつ・返事・後しまつ」

町の人口と世帯

(平成19年5月31日現在)
()内は前月比
総人口 8,326人(△13)
男 3,961人(△9)
女 4,365人(△4)
世帯数 3,156戸(±0)
転入 21人 転出 20人
出生 2人 死亡 16人

町の交通事故

(平成19年5月31日現在)
()内は前年対比
人身事故 11件 (- 5)
物損事故 41件 (- 4)
死者 0人 (± 0)
傷者 16人 (- 8)

地区	氏名	年齢	届出人
宮内	長谷川ヒサ子	87	昭彦
宮内	竹内重雄	67	関子
江奈3	松江直太郎	87	義信
小杉原	一瀬金吾	84	薫
南郷	鈴木さか	96	正巳
中区	佐々木和彦	63	和則
江奈2	山田早苗	57	英治
雲見	高橋千代子	86	公夫
江奈3	木村ふさ江	68	竹夫
門野	吉長茂	87	武志
八木山	田口龍輔	76	幸子
岩地	齋藤準夫	76	齋藤喜久美

6月号の掲載内容(年齢)に誤りがありました。
お詫びして訂正します。

雲見	高橋邦茂	79	龍男
----	------	----	----

(5月分) 戸籍だより

おめでとうございます(出生)

地区	名前	性別	保護者
峰輪	楽翔 <small>ガクト</small>	男	吉長政彦
大澤	一花 <small>イチカ</small>	女	渡邊悟

おくやみ申し上げます(死亡)

地区	氏名	年齢	届出人
江奈1	土田とめ	91	勇介
東区	石垣梅子	94	浩二
宮内	関亮	77	茂樹
中区	三枝万里子	23	康文

この欄に掲載を希望されない場合は、
お申し出ください。

保健師だより

子どものいじば

気持ちをわかってもらえた

喜びが「ことば」を育てる

まだお話のできない赤ちゃんが、さかんにリンゴのほうを見て、指をさして「あつ、あつ」といつています。こういうとき、まわりの大人が「あらあら、リンゴがほしいのね」と赤ちゃんの気持ちをじょうずに読みとつてくれれば、赤ちゃんは「通じた!」「わかってもらえた!」とうれしくなり、もつと気持ちを伝えようとするようになるでしょう。

大人が気が付かなかつたり、全然違うものしかとつてくれなかつたりすると赤ちゃんはだんだんあきらめて気持ちを伝えようとしくなつてしまつてしまつていけません。余裕をもつて「なあに?何を言いたいのか?」という気持ちで子どもと向き合いたいものです。

子どもが成長して「ことば」が達者になるとついことばの表面にとらわれがちですが、つねにことばの裏にある「気持ち」の部分に目を向けてあげましょう。思春期の屈折した表現にも子どもの気持ちをわかつかうという立場で見守っているとそれなりに乗り越えていけるものです。

「暮らしと健康」より

姉妹都市通信

帯広市から

帯広市の大正町には、「大正のカシワ林」があります。

十勝・帯広はかつていたるところにこのカシワ林が見られ、耕地の開拓はこのカシワの切り株を取り除く戦いでもありました。大正のカシワ林は当時の自然がそのまま残っている地域として依田勉三が帯広を開拓した時の帯広の様子がうかがえます。

林の中は、火山灰の乾燥した表土にカシワの枯葉が幾重にも積もり、固く頑固なカシワが深く根付いています。

この大正カシワ林の周辺で市の親善交流課職員十一人が総出で採取したものです。

天然の自然としてはすばらしいのですが、いざこの地を開墾するには大変な労力が必要だったと今でも感じる事ができます。

六月の初旬、この林は一面すばらしい香りで包まれます。スズランが一斉に開花し、短い帯広の夏が始まります。六月の初めに松崎町のみなさんにお届けしたスズランは、この大正カシワ林の周辺で市の親善交流課職員十一人が総出で採取したものです。



今年のスズランは
いかにでしたか。
来年は、松崎町のみなさんと
一緒に採取したいです。是非
帯広にお越しください。

写真は親善交流課職員です。カシワ林の中にスズランが一面に咲き誇っています。この香りを松崎町にお届けしたい一心で採取しました。

※今月号から「帯広市」と「安曇地区」を交互に掲載します。

広報まつざき

二〇〇七年 七月一日発行
通刊 第五一八号

千四〇一三九六 静岡県賀茂郡松崎町宮内三〇一ノ一
五〇五五八四二一三九六三 FAX 五〇五五八四二一三二八三

発行 静岡県松崎町 編集 総務課
印刷 (有)山本印刷